

新城市共育推進計画（案）のパブリック・コメントの実施結果

No.	提出されたご意見	市の考え方
1	<p>上記推進計画案について、気が付いた点、感想等を述べさせていただきます。まず、計画策定の背景のところでは「人生100年時代」をしっかりと見据え、子供世代、現役世代、リタイア後世代といった、従来の枠組みによる捉え方を突破し世代間が垣根を越えて繋がるということが提唱されていて、元気な新城創出に近づく提言であると考えこの提言に対して支持を表明します。</p> <p>次に、基本的（基本構想）な考え方のところでは、80年代90年代でも問題になっていた核家族化（1人に1部屋で家族内での会話の減少等）について、その変容に着目し、人と人の結びつき方の有り様について提言がなされています。また、技術革新（イノベーション）による社会そのものの変化も、共に育むことに対して、向き合わなければいけない課題と考え、心を通わすネットワークが重要であると書かれています。子供も大人も、若者も高齢者もみんなが活動できることによる地域力の増大。共育は大切に尊い学びの部分に特化しているように思われがちですが、そのことを含めた、社会全体としての大事な意義が込められていることについて、2の（1）から理解することができました。（わかりやすかったです。）</p>	<p>市では、近年の社会変化が個々人の生活に与える影響は大きなものがあり、それが昨今の社会の課題となっているという認識のもとに、その課題を生涯学習（共育）という視点から克服すべくこの計画を策定したという経緯があります。</p>
2	<p>4ページ①の家庭教育としての共育では就学前教育を全ての子どもたちに保障し、認定こども園と家庭が車の両輪のように連携していく。また地域が主体となって行われる生涯学習の中で、それを担保補完する。子育て中の母親が1人で抱え込まない仕組みがここにあるように思われます。</p>	<p>この計画では、生涯学習の原点は家庭教育にあるという考え方をし、家庭教育の重要性に着目しています。その家庭教育が家族形態の多様化の中で脆弱化してきているという認識のもとに、就学前教育の拠点であるこども園と家庭を有機的に結び付け、車の両輪のように子育て支援を充実していくことを目指しています。</p>

No.	提出されたご意見	市の考え方
3	<p>4ページ②の学校教育としての共育ですが、社会に開かれた教育課程ということで連携協働が謳われています。従来の考え方から大きく脱皮し、門をくぐりにくい学校から、拠点としての位置づけを行い、大人と子供、そして、大人と大人が共に活動していく、子供のいない私でも、定期的に公立中学校の共育の日（授業参観）に参加させてもらっています。そこから見えてくるもの、まさに「学びの森」が、世代を越えて展開される仕組み。これからも関りを強化していきたいとする提言です。是非、続けていってください。</p> <p>それから、11ページ（2）の学校教育のところですが、市内一斉で展開される「共育の日」は、地域と学校が結びつく、大事な行事の一つではないでしょうか。18歳選挙権時代に突入した現代社会。地域が学校を拠点に互いに学び合う機会。主権者教育という視点もあることから、小学校、中学校と防犯対策をしっかりと構築しながらも、今後も実りある共育の日が展開されることを望みます。</p>	<p>現在の「共育」の考え方は、学校を核として、みんなが共に過ごし、共に学び、共に育つことを言っています。それを具現化するためには、みんなが集まれる場所が必要です。それを学校とすることは自然であり、合理的であります。その学校に地域の老若男女が集い、心を通わすことのできるネットワークを構築することができれば、元気なまちづくりが見えてくると思います。</p>
4	<p>次に19ページの4の実施計画のところ、子育て支援について書かれています。新城だからできることではありませんが、その手厚さに、子供のいない私でも参加してみようと思ったほどです。こんな言い方をすると語弊があるかもしれませんが、訳あって、子供がいないからこそ「観えてくる視点」があります。今後も含め、さらなる充実をお願いします。</p> <p>21ページの「こども食堂」の開設支援ですが、昨年、JCの皆様が主催して、その必要性についての講演会（学習会）が行われました。「新城にも食堂を」と思う方もいるかもしれませんが、当日会場が満員になり、熱気のようなものさえ感じました。まずは、大勢の皆さんが一つのことに向かって様々な意見を表明し、建設的な議論を深めていく。新城にとって大切なことは、居ても立っても居られないという気持ちと、熱い想いが新城にはあることがわかり、住んでいてよかったと思ったほどです。大事な視点であると考えます。</p>	<p>先にも言いましたように、この計画では、家庭教育の重要性を強く謳っています。子育て支援、子供に対する福祉施策は多くの市民の理解を得ているところです。</p>

No.	提出されたご意見	市の考え方
5	<p>最後に全体を通しての感想ですが、この計画案を支持したい気持ちでいっぱいです。共育については、不詳、わたくしの勤務校でも折に触れて話題にするようにしています。共育川柳についても授業の中で教え子に、その意義を説明しているところです。</p> <p>高大連携ではありませんが、繋がる項目が、この計画案の中にたくさん存在します。まずは、共育という言葉の持つ意味について、他府県の皆さんも含め、広めていくことができると考えます。</p> <p>個人的ではありますが、職場で「共育」の奥深さを道徳的な部分も含め、生徒たちに投げかけていくことを今後も継続していきたいと考えます。この活動が、新城全体に、愛知全体に広がっていくことを、教育者の端くれとして夢に抱いておりますが、夢で終わらないよう、一步一步この計画を支持しながら新城を愛していこうと思います。</p>	<p>新城教育の基本理念である「共育」の普及・促進を図り、家庭・学校・地域の連携協働により、市民一人ひとりが元気になり、地域の活力、まちづくりにつなげていくことを目的としたこの「新城市共育推進計画」に、ご指摘、ご理解いただきました点につきましては、さらなる充実を期していきたいと思っています。この共育の実現には市民の方々の自発的な取り組みが欠かせません。これを機会に是非とも共育の活動にご参加くださるようお願いいたします。</p>